

Photobook

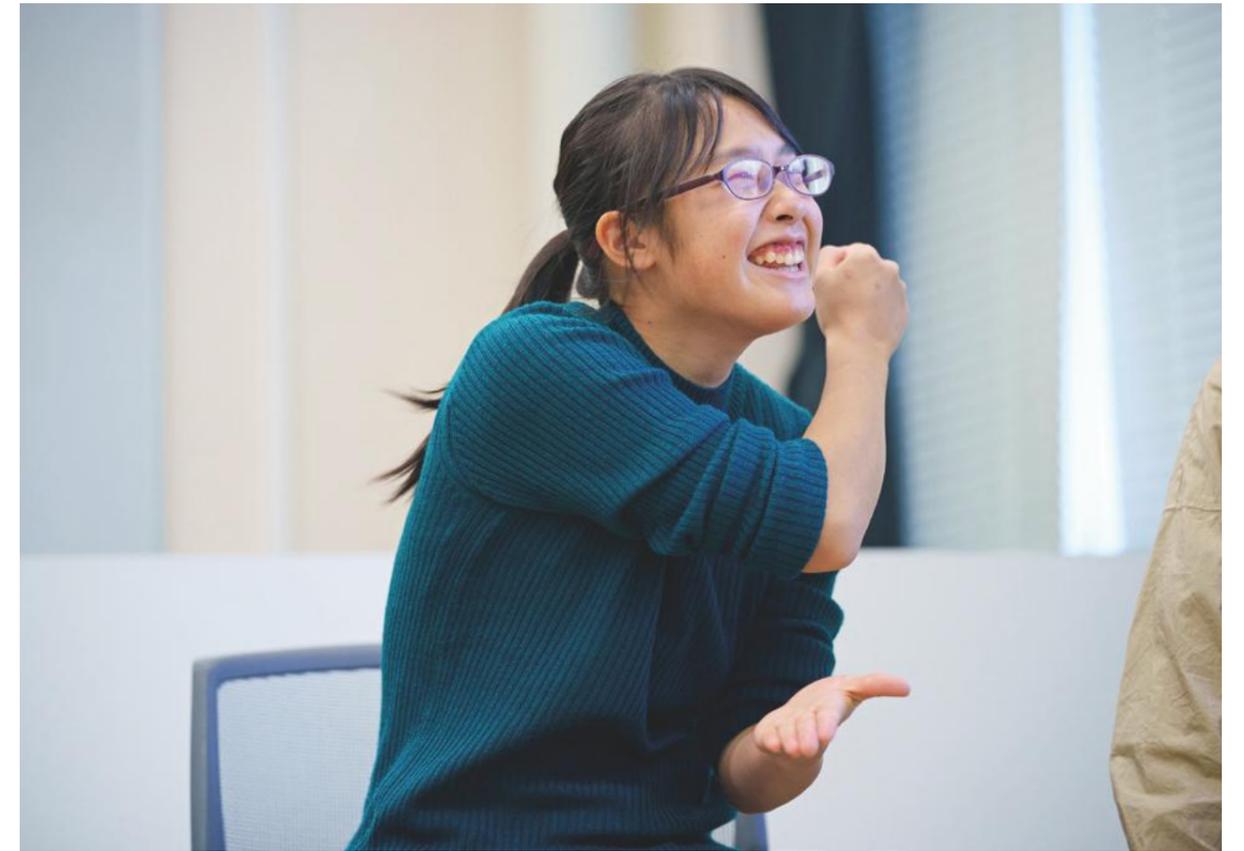
「群馬大学手話サポーター
養成プロジェクト」
の取り組み(2018-2019)



Supported by  日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION



群馬大学
GUNMA UNIVERSITY



「群馬大学手話サポーター養成プロジェクト」は、日本財団助成「学術手話通訳に対応した通訳者の養成」事業の中心をなす、学生手話サポーターの養成を行っているプロジェクトです。群馬大学教育学部の金澤貴之教授が中心となり、在学中に手話通訳者資格を取得するカリキュラムを構成し、より効率的、効果的な手話の習得と手話通訳技術の習得のための研究開発と実践を行っています。

このPhotobookは、プロジェクトの一環として行われている授業の様子などを、「手話」の本質であるビジュアルで捉えた一連の写真から抜粋したものです。

【写真】内村コースケ

1970年、ビルマ・ラングーン（現ミャンマー・ヤンゴン）生まれ。東京、オタワ（カナダ）、ロンドンで育ち、新聞記者・報道カメラマンを経てフリー。「撮れて書ける」フォトジャーナリストとして、国際的な感覚を生かして撮影・執筆活動をしている。ライフワークとしているテーマは、アイメイト（盲導犬）、帰国子女教育、国際ニュース分析など。聴導犬ユーザーの取材・撮影や大学案内パンフレットの撮影経験を生かし、「群馬大学手話サポーター養成プロジェクト」の取り組みもフォローしている。



「単語ユニットの日本手話」



1年生向けのこの授業では、日本手話の文法や理論を学びます。日本手話の基本構文を、シンプルなものから少しずつ難易度を上げて学習していきます。これは、フラッシュカードを用いて単語の確認をしているところです。

「言語としての日本手話実践」

1年生向けの、ろう者教員と手話で会話をする授業です。全員の顔と手がよく見えるように、机を使わず、半円形に座って進められます。



CLASS



CLASS



「手話と情報アクセシビリティ」

この授業は教養科目のため、教育学部以外の学生も受講できます。この日は、教育学部・医学部・理工学部・社会情報学部の学生が大教室で受講しました。前半は情報アクセシビリティに関する講義、後半は手話の実技。100人近くの学生が一斉に手話している様子は、なかなか壮観！ちなみにこの手話は「ヤ」の指文字…ではなくて、「前橋」です。



「事業を支えるスタッフたち」



「群馬大学手話サポーター養成プロジェクト室」では、常にコミュニケーションを取りながら事業を進めています。女子比率が高いせいか、食べ物のお話で盛り上がることも多いです（笑）。

MEETING



「研究スタッフミーティング」

「群馬大学手話サポーター養成プロジェクトチーム」が月1回程度開催しているスタッフミーティングの様子。それぞれの手話に関する研究や開発の進捗状況を報告。全員が手話で話し、それぞれの担当の相談ごとについて活発な意見が交わされます。



COACHING

ろう者スタッフ2名による日本手話の見本動画の撮影風景。
これが学生たちが学ぶ教材になります。



学生たちはろう者が示す見本をなんどもよく見て真似をし（シャドーイング）、自分のものにしていきます。



「日本手話と日本語の違いを学ぶⅠ&Ⅱ」



2年生の授業風景。語彙力強化のため、プロジェクターに表示された日本語の単語を見て、手話で表現をする練習中。なお、上の写真は、左端の男子学生から順に「盲」「導く」「犬」と表現しています。つまり「盲導犬」。



「日本手話と日本語の違いを学ぶ I & II」



2年生になると週1回の授業の他に週3回も(!)課題提出があり、学生たちは空きコマにプロジェクト室に来て、グループごとに手話動画の撮影をします。撮影は、日本語を読み上げる役など、役割分担をして進められます。

(左ページ下) 写真の2人の学生は手話のラベル文(日本語の単語を手話の語順に当てはめる作業)を作成中。手前の学生は次の撮影に向けて手話の練習をしているところです。





「日本手話と 日本語の違いを学ぶⅢ」

3年生になると、実際の講義場面を用いた手話通訳の実技を行います。講師の許可のもと、生の授業の後方で、お互い協力しながら通訳場面を撮影します。講師との事前打合せも本番さながらに（お互い「知った顔」なので、冗談も飛び交いながらですが…）。



OPEN SEMINAR



「公開講座」

2016年度から毎年、一般の方向けの公開講座を実施しています。毎年テーマは変わりますが、変わらぬ大きな特徴があります。それは、講師が日本手話で講義をすること。聾者にとって、手話通訳を介さずに専門的な講義を受講できる貴重な機会。毎年楽しみにしている「常連さん」も増えてきました。



本プロジェクトの成果発表や、全国的な課題を話し合うシンポジウムを毎年開催しています。



内閣府大臣政務官室と遠隔で結んでの、パネルディスカッションの実施。



休憩時間の合間に、会場の隅でパネルディスカッションの打ち合わせ。



聞こえる人たちは手を叩きますが、聾者の拍手は頭上に挙げた両手をヒラヒラさせます。会場中に「手話の花」が舞う、聾者流の「拍手」で閉会しました。



Photobook
「群馬大学手話サポーター養成プロジェクト」
の取り組み(2018-2019)
2020年3月発行

国立大学法人 群馬大学
手話サポーター養成プロジェクト室
〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町4丁目2番地
<http://sign.hess.gunma-u.ac.jp/>
TEL : 027-220-7157 (直通) FAX : 027-220-7390
MAIL : SLSDP@jimu.gunma-u.ac.jp

